

---

# 発明品！...の？

紀璃人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

発明品！…の？

### 【Nコード】

N7540U

### 【作者名】

紀璃人

### 【あらすじ】

にとりの発明品をめぐるごたごたがあったりなかったり。

(主に自爆)

(前書き)

久しぶりの短編。今回の主人公はにとりです。

「よし、出来た…！」

洞窟の中に一人の少女の声が木霊する。

少女の名は河城にとり。種族は河童である。

「しかし、こんなものが知れたら…！」

彼女はたつた今「電子演算機」なるものを作り上げたのだ。しかも持ち運び式なので軽く、小さい。機能的には計算はもちろんカメラ、写真編集、文章作成、プリント……etc…

見た目は外の世界のノートPCにカメラをつけて通信系統やUSB、CDの機能を取り除いたものの様なものである。

彼女の懸念は誰かに持ち去られないか、である。

しかし持ち運べなければ意味がないのだ。

「こうなったら防犯を強化しなければ…！」

実は彼女は以前家で実験をした際に失敗し、住処を吹き飛ばしたりしている。

なので（河童も住まないような）洞窟に居を構えているのだ。

そこに流木のドアをつけただけ。これでは防犯も何もあつたもんではない。

現に、既に何度か盗難に遭っているのだ。

「盗もうとするやつは徹底的に懲らしめておきたいなあ…。そうだな！」

にとりは早速作業に取り掛かった。

「ん？なにやらにとりの家が騒がしいな」

霧雨魔理沙はにとりの家を見て騒音に眉をひそめた。



玄関（？）であった。

「おい誰かいるか？」

「魔理沙！助けに来てくれたの！？ここから出して！」

「ちよつと待ってる！端に寄ってるよ！恋符」

「え？ちよつ！」

ちなみにPCは部屋の中央にある。

「マスタースパアアアアアアアアク！！！」

「ああああああ！！！」

瓦礫と共にPCは姿をけし、マスパによって洞窟が崩壊する音と  
にとりの絶叫が幻想郷に木霊した。

Fin

(後書き)

マスパの威力なめたらイカンWWW

洞窟ごと壊す威力WWW

え？にとり？埋まったんじゃないですかね

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7540u/>

---

発明品！...の？

2011年10月9日04時53分発行